

# 東京電力 福島第一原子力発電所では、廃炉の一環である「ALPS処理水」の海洋放出を計画通り、安全に進めています。

東京電力ホールディングス株式会社は、福島第一原子力発電所の着実な廃炉に向けて、多核種除去設備 (ALPS) 等で浄化した「ALPS処理水(注1)」の海洋放出を、昨年8月から実施しています。ALPS処理水に含まれる「トリチウム」は、政府方針で示された上限値を下回るよう大量の海水で希釈した上で放出しており、放出後の海域モニタリング

によるトリチウムの濃度は、世界保健機関 (WHO) が示す飲料水の基準値を大幅に下回る、安全なレベルとなっています。当社は、国際原子力機関 (IAEA) の継続的な検証等を通じ、海洋放出の取組の安全性および透明性を確保するとともに、計画・実績、安全性に関するデータを、国内および国際社会に向けて積極的に公開していきます。

## 福島第一原子力発電所 ALPS処理水希釈・放水設備

**放出前**

トリチウム以外の放射性物質の濃度が、国の規制基準を満たしていることを確認しています。(注2)

トリチウムの濃度が、政府方針で示された上限値を下回ることを確認しながら放出しています。(注3)

**放出後**

海域のトリチウム濃度は国内外の安全基準を大幅に下回っています。(注4)

東京電力 福島第一原子力発電所周辺の海域モニタリング結果 (トリチウム)

放出回数	期間	最大トリチウム濃度 (Bq/L)
放出1回目	2023年8月24日～9月11日	最大10
放出2回目	2023年10月5日～10月23日	最大22
放出3回目	2023年11月2日～11月20日	最大11
放出4回目	2024年2月28日～3月17日	最大16
放出5回目	2024年4月19日～5月7日	最大29
放出6回目	2024年5月17日～6月4日	最大7.7
放出7回目	2024年6月28日～7月16日	最大18

○: 各期間中検出されたトリチウムの迅速測定※3の最大値

※1 原子力施設の放水口から出る水を毎日、その濃度で約2リットル飲み続けた場合、一年間で1ミリシーベルトの被ばくとなる濃度から定められた基準  
 ※2 東京電力の海域モニタリング (発電所から3km以内の10地点) において、1地点でも700ベクレル/ℓを超える場合、速やかに放出を停止します  
 ※3 迅速測定は、検出下限値を上げることで迅速に分析を行い、海域の状況を早期に把握することを目的としています  
 ※発電所から3kmよりも外側の測定点 (発電所正面の10km四方内) では、検出されませんでした。

## 海洋放出の取組は、IAEAの継続的な安全性の検証により透明性を確保しています。(注5)

グロッシー IAEA事務局長の東京電力 福島第一原子力発電所視察 (2024年3月)



意見交換の様子 (左)



希釈・放水設備の視察 (右から3番目)

- (注1) 燃料デブリ等に触れた水の放射性物質 (トリチウムを除く) を、多核種除去設備 (ALPS) 等で、安全に関する規制基準を確実に下回るまで浄化処理した水。
- (注2) 「測定・確認用設備」で、69核種について分析・評価を行い、そのうちALPS処理前の水に有意に存在する可能性がある測定・評価対象核種29核種 (2024年8月以降は30核種) が国の規制基準値を確実に下回っていることを、当社・第三者機関で確認します。残りの核種についても毎回、有意に存在しないことを確認しています。
- (注3) 大量の海水で希釈したALPS処理水のトリチウムの濃度が、政府方針で示された上限値 (1,500ベクレル/ℓ) を下回ることを確認しながら、放出を行っています。
- (注4) 発電所の周辺海域のトリチウム濃度は、世界保健機関 (WHO) の飲料水ガイドラインを大幅に下回っています。放水口から数km離れた、海水にもともと存在しているトリチウムの濃度と同等となることを確認しています。
- (注5) これまでのIAEAタスクフォースによる検証や発電所構内に設置されたIAEA事務所による定期的な監視により、放水設備の安全性を確認いただくとともに、放出される処理水や海水等について独立したモニタリングをしていただいています。

● 海洋放出の状況や分析結果などは「処理水ポータルサイト」でご確認いただけます。



処理水ポータルサイト

ALPS処理水に関するあらゆる情報を集めた特設サイトです。世界中の方々に向けて、多言語 (英語、中国語 [簡体字・台湾繁体字・香港繁体字]、韓国語) で発信しています。



東京電力 福島第一原子力発電所の廃炉作業について、皆さまの意見をお聞かせください。

